

庄内協同ファームだより No.175 2018年11月号

No.175 2018年11月号



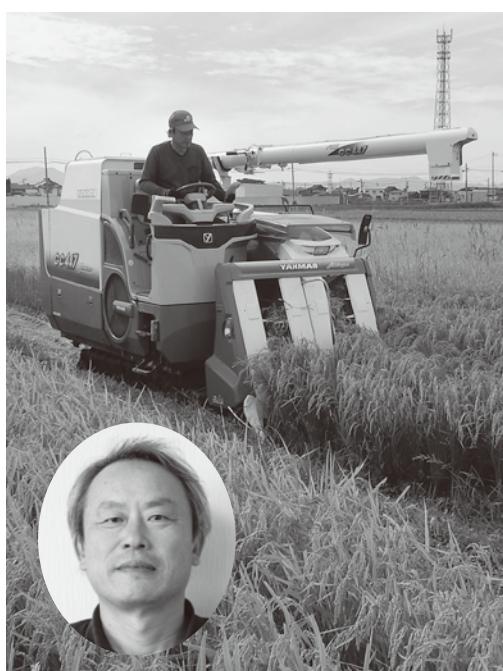
卷行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonafarm.com>

秋の稻刈りが一段落し、陽が落ちるのが段々早くなり秋の深まりを感じる今日この頃です。皆様に於かれましては益々のご健勝の事とお慶びを申し上げます。報告が遅れましたが、8月の通常総会において小野寺喜作が代表理事を退任し、新しく私今野裕之が代表理事に就任しました。よろしくお願ひ致します。本期の改選では多くの若い人たちが理事に選任されました。あわせてよろしくお願ひ致します。

農業を取り巻く現在の情勢として世界に目を向ければ、アメリカと中国の貿易戦争によるサプライチェーンや今後行われるアメリカとの貿易交渉の行方で農業に大きな影響があるかもしれません。国内では異常気象による天候不順で農産物の生産が不安定になってきています。特に今年は顕著で日照り、大雨、台風、地震等の被害甚大で農業をする事が「ギャンブル」ではないかと思わせる年でした。

全国的にも同じ傾向にある様ですが、山形県庄内地方では農業従事者の高齢化による農業者人口の減少で、耕作放棄地が出ない代わりに地域の若い農業従事者へ農地が集中し、農作業の負担が増えています。その様な中で庄内協同ファームのモットーであります「豊かな自然環境を大切に、安全とおいしさを求めて」と言う事がどこまで出来るか、英



知を絞り創意工夫で乗り越えなければならぬと考えますが、何分にも私たちだけの努力だけでは限界があるので食べててくれる皆様の協力が必要と考えます。そのために方通行ではなく、お互いを分かり合うために交流が大切になつてくるのではないでしようか？田植えや稲刈り等をして直接会つての交流、お手紙やお便り、色々な講演会の参加等での出会い、お互いの状況をお知らせする事での交流、どちらの交流も私たちにとってはとても大切で楽しいことです。それはお互いの信頼関係が良い方向に繋がる事だと思いますし、私たちの農産物を食べて皆様から「美味しいかつたです」「これからも楽しみにしています」等のお話が聞けると、励みになり頑張ろうという気持ちになるからです。

現在庄内協同ファームの農産物は、農薬を出来る限り削減し化学肥料を使わない「減農薬無化学肥料栽培」や農薬・化学肥料を使わない「有機栽培」の農産物で米・餅・枝豆・麦茶・きな粉・おこし・あられ等を皆様にお届けしています。これらの栽培方法は普通の栽培に比べると手間暇がかかります。見た目は同じでも庄内協同ファームの農産物は中身が全く違い美味しく感じられます。その分価格は一般の農産物より高くなりますが、見合う分の価値はあると自負していますし、その対価を頂くことで生産を続ける事が出来るのであります。しかし、有機栽培等ハードルの高い栽培方法は年々厳しくなつてするのが現状です。もう少し緩やかな栽培方法を模索していくかなければならぬと思いますが、何処に着地点を置くかは食べてくれる皆様との交流の中で探しにいきたいと思います。

していりますし、その対価を頂くことで生産を続ける事が出来るのです。しかし、有機栽培等ハーデルの高い栽培方法は年々厳しくなっているのが現状です。もう少し緩やかな栽培方法を模索していくかなければならぬと思いますが、何處に着地点を置くかは食べててくれる皆様との交流の中で探しでいきたいと思います。

人は食べる事で元気になります。世界中から色々な食べ物が日本に入つてきていますが、その沢山の中から「庄内協同ファームの商品を選んでいただけるよう努力していきますので、これからもよろしくお願い致します。

代表理事
今野 裕之



パルシステム埼玉 稻刈り交流会

組合員室長 高橋直之

9月29日に、パルシステム埼玉稻刈り交流会が行われました。庄内協同ファーム、JA庄内たがわと毎年交互に担当していますが、今回はJA庄内たがわの三川町斎藤祐一さんの圃場で開催でした。

当日は台風がだんだん近づいている状況ではありましたが、埼玉から37名、こちらは32名の参加で、みんなで鎌を持っての手刈りです。

生産者が一家族に数名ずつ担当して、一緒に作業をしながらお話しながらの刈り取り。

参加してくれた方は、初めての方もいれば、田植えで参加したのでぜひ秋の稻刈りも!という方。何回も参加し庄内が大好きになった!というコアなファンと様々。私は初めて参加の親子を担当しました。

「ここからあそこまで刈りましょう」「4株ぐらいずつ刈って、ワラで束ねます」「8月に大雨が何度もあって困りました」「昔は1日ひとり一反歩(10a)刈ると一人前だったようですよ」「こんなにいっぱいを手で刈るの~!?」



「カエルやイナゴがいっぱいいる!」など、いろんな話をしながらの作業で、あっという間に刈り取る事ができました。

束ねた稻を今度は杭掛けしていきます。杭を打ち、稻を交互にしばってとめ、傘状に積んで干して自然に乾燥させますが、僕も初めての体験でした。

夜は懇親会となりました。今年の新米、山形名物のいも煮と一緒に頂きました。ご飯は今回の圃場の斎藤さんのつや姫でうまかったです。懇親会の名物となった花笠音頭も皆で踊りました。

この交流のいい所は、生産者が直に生協組合員(消費者)と話す事ができるということです。生産者は作って出せば終わり、組合員は食べたら終わりではなくて、それぞれの思いを知ることができます。何回も来てくれるような庄内のファンを増やしたいし、そのためには僕らはまた美味しいお米や作物を作り、思いも一緒に届けたいと感じます。



新理事紹介 (今期の抱負)

富樫 俊悦 (トガシ シュンエツ)

庄内協同ファームにも本当の意味での世代交代がついにやってきたと感じています。何かが変わる時、目に見えるマイナス面を怖がるより芽吹きつつある新しい力を信じたいし、応援したい。組合員や協力組合員の新規加入、自ら主的に成長しようとしている若い職員の姿、今までとは違った若い感性で動き出した青年部。私は楽しみです。

五十嵐 勇輝 (イガラシ ユウキ)

理事を務めさせていただいております五十嵐勇輝と申します。主に水稻と枝豆を栽培しています。今年も台風や異常気象等で苦労させられましたが、無事収穫を迎えることができほっとしています。これからも安全でおいしい食べ物を皆様に食べていただけるよう頑張っていきたいと思います。

小野寺 仁志 (オノデラ ヒトシ)

今期から再び理事を、おおせつかり、有機JAS委員会と農産加工部を担当する事になりました。いつの時代も農業を取り囲む環境は良いとは言えませんが、庄内協同ファーム立ち上げ時のエネルギーと意気込みを持って次世代の理事と一緒に食の安全・自然環境への配慮等を目指したいと思います。

小野寺 彰 (オノデラ アキラ)

年々、農業を取り巻く環境、気象変動なり、食の多様化なり、TPPなりが厳しくなり、農家は先の見えない時代です。今こそ、産直の原点を見つめ直して、進んでいかなければならぬと思います。理事の方々も若返り、柔軟な発想と先見性を持ちながら、ファームの運営に関わりたいと思います。

高橋 直之 (タカハシ ナオユキ)

ファームでは加工担当の理事として、もちつき等の作業のリーダー的な立場をしながら、現場でみんなと一緒に働いています。今期から新たに組合員室長になりました。交流の担当として、各生協祭り等の準備や打ち合わせなどもしています。農産物検査員もしています。

うちでは、主に米農家(約20ha)、二児の父。奥さんはラズベリーの栽培と加工などをしています。

小野寺 紀允 (オノデラ ノリマサ)

今春より青年部部長にもなっており、若い方を鼓舞し、安全安心のものを楽しく作っていきたいと思います。また種子法廃止や遺伝子組み換え種子など新たな農業情勢の変化が起りうるこの機をチャンスとし、新任になりますが責任感を高め、次世代にも続くような環境づくりを頑張りたいと思います。

庄内おかあさんの ～おいしい台所～

～いちじくジャム～

(材 料) いちじく 800g、砂糖 400g、
クエン酸水 (クエン酸 4g、水 80cc)

(作り方)

- 1) いちじくをよく水洗いし皮をむく。
(皮をむく時はいちじくの白い液体がベタベタして痒くなることがあるので手袋をすること。)
- 2) サイコロ状にいちじくをきざみ、クエン酸水にひたす。
- 3) 鍋にクエン酸水ごといちじくを入れ、煮る。灰汁が出てきたらすくう。
- 4) 灰汁が出なくなったら、分量の砂糖を少しづつ加えていく
- 5) ビンに詰めて、水を張った鍋にいれて沸騰させて15分熱消毒し、取り出して冷ます。

パンや
ヨーグルトと
一緒に!



高橋
紀子



ペンリレー

徒然草

小野寺 喜作

市の関係で鹿児島市立武中学校と鶴岡市立第二中学校との交流である程度のことは知っていたつもりでした。しかし、庄内藩士が刀を鍔に変え松ヶ岡を開墾し、養蚕を進めることに後押しをしたのが西郷隆盛だったことは知りませんでした。また鶴岡の発明家「斎藤外市（といち）」が電動式の絹織物機

あとがき



3歳の息子とのとある夜ご飯。
息子がしゃべった言葉。（ほぼ原文）



二期六年間の
庄内協同ファームの代表理事在
任期間中は大変

お世話になります。

した。一定の役割を終えて気持ち的に
はゆっくりしています。組合員として
はそのまままでの今後も宜しくお願
いします。

先日の稻刈り交流の際、素敵なプレ
ゼントを頂きました。「きびそ」で
作った帽子です。「きびそ」とは、蚕
が繭を作るときに最初に吐き出す糸の
ことです。



「きびそ」との出会いから庄内や鶴
岡の歴史にさらに興味を持ちました。
鹿児島と鶴岡や西郷さんと菅さんの
「徳の交わり」等に関しては、兄弟都

私が「きびそ」と出会ったのは、
(株)鶴岡シルクの社長から展示会のオ
ブジェとして「きびそで作った馬一〇
〇頭」の制作依頼を受けたときでした。
硬く、ごわごわして一見「さきいか」
のような白いひも状のものでした。何
とかわら細工の要領で期日まで作りま
したが、その時までここ鶴岡が絹の一
大産地だったことを知りませんでした。

日本の一番北にある絹の産地がここ
庄内地方です。蚕を育て繭から糸を作
り、織物にし精練（光沢を出す）し、
染色の一貫工程が行えるのが国内では
この地域だけになつていてこと。シル
クの良さ（防水・保溫通気・抗菌・抗
酸化・保湿透湿・生体親和性・UV
カット）を知つてもらい鶴岡のシルク
や産業を次世代につなげていくための
製品を作ること。一貫工程が出来る鶴
岡の強みを活かして、この地をもっと
魅力ある場所にしたいと熱く語る鶴岡
シルクの社長の言葉が印象的でした。
それ以来、わら細工の干支の人形と
「きびそ」を材料にした干支を作つて
います。



「きびそ」との出会いから庄内や鶴
岡の歴史にさらに興味を持ちました。
鹿児島と鶴岡や西郷さんと菅さんの
「徳の交わり」等に関しては、兄弟都

職員紹介

新職員 斎藤千愛 (さいとう ちさと)



私がファームに初めて来たのが中学生の時の農業体験でした。

餅取りをしたことが印象に残っています。

昨年の繁忙期もお世話になり、今年の9月から職員として働らさせていただいております。
まだまだ解からない事ばかりですので、ご指導の程よろしくお願い致します。

明るい未来が見えました。

おもちのあじってどんなあじ?
おいしいあじ。
あまいあじ。
おいしいよね。
もつちもつちしてます。